

シェワルナゼ氏の警告、クリントン氏の回想 覚書が残した教訓とは

西田進一郎 宮川裕章 毎日新聞 2025/3/7 05:32



ウクライナのクラフチュク元大統領の葬儀に参列するゼレンスキー大統領とオレナ夫人＝キーウで 2022 年 5 月 17 日、Abaca Press・ロイター

米国とウクライナはソ連崩壊から間もない **1994** 年ごろ、ロシアによる将来の侵攻をどこまで予見していたのか。

米国の研究者、**ジョージ・ボグデン氏**が発見した外交資料によると、東京サミットを 3 カ月後に控えた 93 年 4 月に当時の**ウクライナのクラフチュク大統領**は、元ソ連外相で後にジョージア大統領となる**シェワルナゼ氏**に苦しい胸の内を明かしている。

「帝国主義にとりつかれている」

「**米露両国**から、ロシアに（核兵器を）移管するよう圧力を受けている。ロシアの抵抗は分かるが、米国は聞く耳を持たない」。そう訴えるクラフチュク氏に**シェワルナゼ氏**は答えた。

「**米国人は（ロシアの指導者を）ロシアの民主主義者と呼ぶが、彼らは今も帝国主義にとりつかれている**」



ロシアによる全面侵攻開始直後、「ブダペスト覚書」と書かれたプラカードを掲げ、米国のウクライナ支持を呼びかける人 = 米ニューヨークで 2022 年 3 月 5 日、Sipa・ロイター

シェワルナゼ氏は、ソ連外相だった当時に読んだ中央政府とソ連を構成する 15 共和国との関係を示す機密文書の内容をクラフチュク氏に教えた。「**非常時には各共和国の市民をシベリアや極東へ移送することや、軍を介入させることが書かれていた**」

そして、シェワルナゼ氏はクラフチュク氏にこう助言した。「**抑止力として 1 発でも核ミサイルを保持できれば、ロシアから独立と主権を守ることができる。ロシアの指導者たちは力のみを信じ、そして恐れる**」

「保証」ではなく「約束」に

一方、米国はウクライナ側の懸念を認識していたが、安全を保証する意思は当初からなかった。3カ国声明やブダペスト覚書には、ウクライナが求める「**保証**」(guarantee)の言葉はなく、「**約束**」(assurance)という言葉が使われている。

「米国でいう保証には、日米安全保障条約のように、有事に米軍が駆けつける意味があります。だが上院の反対などを考慮すると、これは不可能でした」。3カ国声明で米交渉団を率いた元高官のパイファー氏は証言する。**米側は当時、「保証」と「約束」の定義をウクライナ側と確認した**という。

パイファー氏は言う。「米国、ウクライナとも 2014 年と 22 年にプーチン氏がしたことを予見できませんでした。(ウクラ

イナの安全保障に関して) **米国が具体的に何をするかを当時、議論しなかったのは、双方のミスでした**」

パイファー氏はこうも語った。「**米国にはウクライナを支援する約束**がありました。バイデン前米政権のウクライナ支援は不十分ですが、**90年代に約束した内容に沿うもの**でした。また、ウクライナが核を保持し続ければ、米国や欧州と現在のよ
うな外交関係を築けなかったでしょう」

世界に残した教訓は

クリントン氏は23年4月、アイルランドの公共放送 RTE で、ウクライナの核放棄までの協議について振り返っている。

「私には個人的に深く関わったという思い出があります。なぜなら、**私は彼ら（ウクライナ人）に核兵器放棄を同意させた**からです。**彼らは、ロシアの拡張主義から自分たちを守る唯一の方法が核であると考え、それを手放すことを恐れて**いました」

94年12月、ハンガリーの首都ブダペスト——。ウクライナは非核兵器保有国として核拡散防止条約（NPT）に加盟するための書類を提出し、米国、ロシア、英国とのブダペスト覚書に署名した。

米国の研究者、**ボグデン**氏は次のように指摘する。「米国は**94年当時、ロシアが将来、民主主義陣営の一員になると過信**しました。ウクライナの非核化は、**当時の米国が核兵器や核保有国の削減に執着するあまり、長期的な国際秩序の安定を損ねた**点で、**世界に教訓**を残しました」【キーウで宮川裕章、ワシントン西田進一郎】